

執筆者紹介（執筆順）

呉 豪人（ご ごうじん）	輔仁大学法律学院
北村 嘉恵（きたむら かえ）	北海道大学教育学研究院
森 宣雄（もり よしお）	同志社大学（嘱託研究員）
中山 大将（なかやま たいしょう）	京都大学東南アジア地域研究研究所
倉本 知明（くらもと ともあき）	文藻外語大学欧亜語文学院
國府俊一郎（こくぶ しゅんいちろう）	大東文化大学経営学部
今井 淳雄（いまい あつお）	天理大学国際学部
天江 喜久（あまえ よしひさ）	長栄大学台湾研究所
野口 真広（のぐち まさひろ）	早稲田大学地域・地域間研究機構
やまだあつし（やまだ あつし）	名古屋市立大学人間文化研究科
白井 魁（しらい かい）	一橋大学大学院言語社会研究科博士課程
藤井 康子（ふじい やすこ）	輔仁大学外国語文学院（非常勤）
山内 文登（やまうち ふみたか）	台湾大学文学院
五十嵐真子（いがらし まさこ）	日本台湾学会（会員）
豊田 周子（とよだ のりこ）	名城大学外国語学部
安達 信裕（あだち のぶひろ）	文藻外語大学欧亜語文学院
若林 正文（わかばやし まさひろ）	早稲田大学政治経済学術院

編集委員

上水流久彦（委員長）、駒込武、佐藤幸人（副委員長）、唐顯芸、松田京子、松本充豊、三須祐介。
長谷川健治（英文アドバイザー）

編集後記

第20号をお届けします。発行にあたりましては、まず一般財団法人台湾協会に厚く御礼を申し上げます。本学術雑誌も記念すべき20号を迎えることができましたが、それもご支援あつてのことと考えております。

20号ということで1号から20号までの総目次を作成しました。参考にしてください。また今号から新たなシリーズを始めました。「台湾研究を始めるということ」です。長年にわたって台湾研究を支えてきていただいた会員に台湾研究を始めたころのエピソードや思いを語っていただき、日本の台湾研究の歴史を振り返るとともにこれからの台湾研究の刺激になればと考えております。

通常の掲載部分として、今回は、昨年京都大学での学術大会におけるシンポジウム「転型正義と台湾研究」特集、論説5本、研究ノート1本、書評7本を掲載することができました。書評7本のうち、2本は投稿書評でした。例年になく掲載数が多い厚みのある学会報となりました。なお、論説・研究ノートの投稿数は11本でした。

毎号申し上げておりますが、今号発行においても、執筆者、査読を引き受けてくださった学会内外の方、投稿くださった会員の方、文成印刷の皆様にご心より御礼申し上げます。さて、採択率は年ごとに異なりますが、投稿数は減少傾向にあります。学会活動の基盤は学会発表、論文、そして会員間のその共有です。これらの活動の根幹を支えるものが、学会発表への応募や論文等への投稿だと思います。これからも多くの会員の方々に投稿いただければ幸いです。微力ではありますが、編集委員会としても工夫を図ってまいります。

最後にオープンアクセスについて申し上げます。アンケートへのご協力、ありがとうございます。その結果は総会で報告、学会ホームページに掲載した通りです。今後は発行後、1年で学会ホームページに公開されることとなります。非会員の方にも多く読んでいただき、日本において台湾研究をリードする本学会がその社会的役割を一層果たすことができればと考えております。

(編集委員長 上水流久彦)

日本台湾学会報 第20号 2018年7月31日発行

編集・発行：日本台湾学会『日本台湾学会報』編集委員会
〒261-8545 千葉県美浜区若葉3-2-2
日本貿易振興機構 アジア経済研究所
佐藤幸人研究室気付
E-mail：nihontaiwangakkai@gmail.com
ウェブサイト：http://www.jats.gr.jp/